

きいちゃんの いきいき支え合い通信

この通信では、地域の「顔が見える」関係の中で、日常生活の困りごとを助け合い、支え合う活動が進むことを願い、生活支援に関する県内の先進事例等を発信していきます。



第15号

令和5年7月
和歌山県
長寿社会課

支え合い事例紹介 古座川町「集いの場 陽だまり」

古座川町では生活支援コーディネーターである古座川町社会福祉協議会の宮本さんを中心として、町と社協が連携して生活支援体制整備事業に取り組まれています。古座川町では、今まで「いきいき百歳体操」などの集いの場づくりを主として取り組んできており、つながりづくりによる支え合いの仕組みづくりを進めています。令和5年4月から、高池地区に社協職員が常駐する新たな集いの場「陽だまり」がオープンしたとのことを聞き、町と社協の皆さんにお話を伺いました。



集いの場 陽だまり



常駐する見守り員
久保さん

生活支援CD
宮本さん

町健康福祉課
神田さん

立ち上げた経緯は？

きっかけとしては、令和2年度に新たな地区の集会所機能を有した津波避難ビルが建設されたことにより、それまで利用されていた公共施設を何らかの形で活用できないか、という話が出てきたことでした。紆余曲折あったものの福祉部局で活用できることとなったため、町と社協で協議を重ねた結果、常駐型の集いの場とすることとなりました。施設の改修にあたっては、今までの集いの場づくりや「ふれ愛カフェ♡よりみち」の実施で培った経験をもとに、間取りや設備を工夫されたとのことです。

「陽だまり」でできること

「陽だまり」は談話スペース、学習スペース、運動スペースがあり、高齢者をはじめ幅広い世代の方が交流できる場所として工夫されています。バスの待ち時間の休憩、新聞や読書、卓球やポッチャなど利用者の方に合った過ごし方ができ、高池地区の方だけでなく町内各地から気軽に来てもらえる場所となっています。

詳しくは次ページ

買い物が便利になる送迎サービス

ココがすごい！

高池地区には町内で唯一のスーパーがあるため、町民の方はよく高池地区に買い物に来られます。そうした方々の多くはバスを利用しますが、帰りのバスの時間が合わない場合が多いため、バスの待ち時間に「陽だまり」を利用してもらいたいという思いがあります。

そこで、事前に電話で連絡をしておくと、常駐している久保さんがスーパーまで車で迎えに行くサービスを実施。これにより、スーパーで買い物をした後、「陽だまり」でバスを待ちつつ交流し、「陽だまり」付近のバス停から自宅に帰ることができます。利用者の方々からは「こんなところあったんかえ、ええなあ。夏は暑いからここで涼しく楽しくバスを待って嬉しいわ。」といった感謝の声を聞いているとのことです。

また、これを利用してもらうため、この施設を知ってもらう工夫をされました。それは、以前「陽だまり」の施設名を考えた際に、高池地区以外のサロン等でアイデアを募る取組をしたこと。これにより、高池地区以外の方が、高池地区に新たな施設ができることや、他の地区からでも気軽に立ち寄っても良いこと等を知るきっかけになったそうです。

「陽だまり」に常駐して感じたこと

久保さんは「始めた時はしんどかった。でも今は様々な方が来てくれて子供と高齢者がお互い気にかけて合うなど良い関係を築けている。来てくれる方々に教えてもらうことも感動させられることもあり、自分も支えられていると感じている。他地区の方々はまだまだ少ないので、買い物帰りに気軽に立ち寄っていただけたら嬉しい」とおっしゃっていました。利用者からの「ここが一番居心地がいいんや」「毎日来たい」といった喜びの声が原動力になっているのだそうです。



送迎の様子



県からのお知らせ

- 県では「生活支援専門アドバイザー派遣事業」を実施しています。是非ご活用をお願いします。
- 皆様の取り組みを紹介させていただきます。県職員が取材に伺いますので下記までご連絡をお願いします。

連絡先：和歌山県長寿社会課 電話：073-441-2521



「陽だまり」が担うたくさんの役割

バスの待ち時間などに様々な高齢者等が集い、交流してほしいという思いでオープンした「陽だまり」は、取組が始まってから予想外な成果があるなど、様々な役割を担っていました。

利用者みんなでつくる集いの場

取材日、「陽だまり」では夏らしい飾りつけや暑中見舞いのハガキを作る作業をしていました。作っているのは、その日来ていた子供たちと高齢者の方々。飾りはいつも利用者の皆で作っているのだそうです。

お孫さんと来ていた細井さんは「夏休みなので孫と一緒に来た。今日は朝も来たので2回目。遊び相手もいるし涼しいのでここができて助かっている。」とのことで、子供達と一緒に作業をされていました。

また、「陽だまり」では7月21日に子ども祭りが開催されました。子ども祭りでは、高齢者が子供たちを喜ばそうとマジックの披露を企画し、自分たちで準備して練習を重ねたそうです。当日は子供たちから大きな拍手が沸き起こるなど双方にとって楽しい会になったそうです。



ひまわりの飾り 暑中見舞い



細井さん

健康づくり・仲間づくりの場

「陽だまり」には卓球やポッチャができる運動スペースがあります。

山崎さんたちは、毎週2,3回ほどここで集まり卓球をしているとのこと。

今まであまり卓球をしたことはなく、この「陽だまり」ができて卓球台があったので「やってみよう」という話になりやり始めたのが今では習慣になっているそうです。山崎さんによると「コロナ禍でなかなか友達に会えなかったが、ここができて卓球をきっかけにまた友達に会うようになった。」とのこと。山崎さんは民生委員の経験もあり地域の方々の様子が気になるようで、利用者の方々をよく交流されていました。丹後さんは、「卓球をしていると球拾いで足を使う。それがえらいけど良い運動になって身体にええんや。」とおっしゃっていました。



山崎さん



丹後さん

山口さん

子供と高齢者の交流の場

「陽だまり」の特徴として驚いたことは、子供が多く来ていることでした。

久保さんによると、意図していたものではなく、思いがけず多くの子供がきてくれているとのこと。取材日は夏休みだったこともあり、特に多くの子供たちが来ていました。

宿題ができる学習スペースと運動スペース、談話スペースが開放的ながらもほどよく区切られている間取りが居心地良さそうでした。

平日も子供たちは宿題をしたり卓球をしたり、高齢者に昔遊びを教えてもらったりと自由に過ごしているのだそうです。



子育て世代と高齢者の交流の場

お子さんと一緒に来ていた丹羽さんは「来たら必ず誰かがいる場所がこの地域にできてよかった。子供をみてもらって少し息抜きできるし、子育ての相談もできる。」と喜んでいました。

また、「ここで子供が高齢者の方々と同様顔見知りになれることがとても良い。登下校の際に子供に声をかけてくれるので安心してます。」と、見守りに繋がっている側面もありました。



学習スペース



高齢者と遊ぶ子供たち

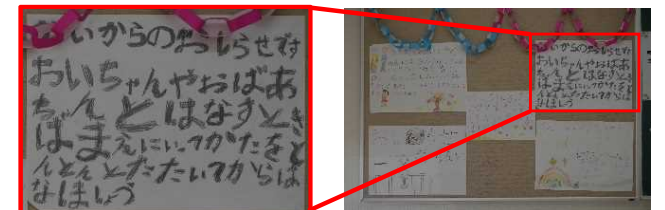
子供たちがルールづくり

オープン当初から思いがけず多く来てくれた子供たちでしたが、はじめは子供たちが活発に遊びすぎるなど課題もあったそうです。

そこで、子供たちと久保さんは一緒にルールづくりをしました。「大声を出さない」や「走らない」、「おじいちゃんやおばあちゃんと話す時は前にいって肩をとんとんと叩いてから話しましょう」など、決めたルールは室内に掲示。今では、子供たちが率先してお茶出しのお手伝いをするようになったのだそうです。



子供たちがお茶出し



子供たちが作ったルール